

斗いの総意志を結集し本館封鎖に立ち上ろう!

評議会大衆団交実現・6.20決定白紙撤回・筑波移転阻止のために

本日の行動 スケジュール

9:00~10:00 <全学総決起集会→学内デモ> 2時~学生大会(G501)
10:30~12:00 <クラス討論> 12:30~2:00 <合同クラス討論> (終了後 斗争委員会)

ストライキ斗争を断乎として貫徹し、クラス闘の下、先頭に立ち、之を、
こける全との学友諸君!

本日の文、学生大会に斗いの奮闘の意志をも、て結集されたことを、文
闘任委員会日評に記し、本日の文、学生大会は明確に、六二〇調査に「決
定」白紙撤回、対評議会大衆団交実現の方針を決定する場である。文、帯
任委員会口、は、さらに、本館封鎖の方針を大胆に、全との学友諸君に提
起したい。

△本館封鎖は、対評議会大衆団交実現の武器である!△
我々の斗いの言葉が、「これ以上移転を許さず」とあり、自らの行動と方針
展望を切り開く唯一の現実的な道であることを確認するならば、本館で行
わなければならない、そして行われなければならない、そして移転推進の一切の策動へ
事ムカ理ムカを許してはならない。更に、学長、評議会に対しては、昨
日のような弱いストライキ斗争では決定的に不十分なので、各幹部教授会に
おける調査に計上「決定」の専断が許され、文部省への正式申請し
入れが撤回の保証に、すべきである。我々も、本日の学生大会で直
に本館封鎖方針を決定、実行すべきである。本館封鎖方針とは、対評議
会団交実現の唯一の武器である。

△本館封鎖とは、全学ストへの道である!△
本館封鎖は、全学部の支持がなくてはならない。文の孤立化を招き、他学
部の学友が離反するのではいけない。計上「決定」は、むしろ逆を
あることを恐らうにしている。即ち、本館封鎖を行なうことには、評議
会大衆団交という対決点の全学化をはかることは可能であるし、と併用し
文学部の斗いの強固な意志を鮮明にすることになる。他学部の学友にイン
パクトを与えることもできるのだから、一般則り合同クラス討、全学集会の追求は
当然のことである。だが、と尚ほにそのよう一般則り方針では、調査に
計上「決定」の重大性、文全学生の斗いの意志を示すことには足りない。我々
文全生は本館封鎖を、こ全学生に、筑波そのものをつきつ、斗争への
決起を叫び、こゆく任ムを、こけるのだ。

△本館封鎖を単に形態にとらえることなく、その内容の強化が闘争の
鍵である!△

昨年のストライキ状況、日次につづつれと消耗している。このことを総括する
ならば、我々の今回の斗争に於いては、学生オーガニズムを貫徹してゆかねば
ならない。本館封鎖を単に形態にとらえてはならない。仮に本館封鎖が三
十人程度で行われれば、それは何れもあがりあろう。だが学生大会
で決定されるならば、それは現実的かつとして内容をも、こけることを同
じり銘記しよう。本館封鎖を可能にする力は、まさに学生の六二〇決定
闘いの強い意志であると同時に、自治部の方の闘争の力。我々は不断に戦
意の奮揚を叫びかねばならないし、本館、巨館を封鎖するの叫びから、学生
による大学の自主管理を行い、大学を我々のものにしていなければならない。
我々学生自治能力の総合性、意識性を示し、学生自治の優越性を鮮明にし
てゆくであろう。その意味で我々の斗いは、現在の闘争に比し、大学を全
面的に否定し、前に大学秩序を創造してゆく斗いであるのだ。

学友諸君!本館封鎖から全学ストへむけて、我々の全力を結集しようぞ
はなれ!

文全六八六二九

文学部自治会